

いばきた

デザイン プロジェクト レポート

IBA-KITA
DESIGN PROJECT
REPORT

04

2019 / 11



お問い合わせ
茨木市 都市整備部 北部整備推進課
〒567-8505 茨木市駅前三丁目8-13
電話：072 (620) 1609
ファックス：072 (620) 1730
メール：hokubuseibr@city.ibaraki.lg.jp



地元の人が力を合わせて伝統文化を守り継ぐ「泉原の秋祭り」。子どもたちが太鼓を叩く神輿を引き、泉原の豊かで美しい里山を巡っていきます。

茨木市北部地域の課題解決を目指して。

茨木市は、大阪市や京都市へアクセスしやすく、大学・高校をはじめとする教育機関、ショッピングモール、商店街、飲食店などの商業施設も充実していることから、関西圏の中でも「住みよいまち」「利便性の高いベッドタウン」として評価が高く、茨木市全体の人口推移は毎年増加傾向にあります。一方、北部山間地では、若者を中心とする人口流出と農林業従事者の高齢化により、産業や環境保全の停滞が続いています。特に問題となっているのが、山間地の「深刻な過疎化」です。茨木市の全面積の約半分が山間地にあたりますが、市街地の人口に対して約1%という統計もあります。

いばきたデザインプロジェクトでは、このような課題解決に向けて、地元で暮らしているの方々をはじめ、市内外のさまざまな人たちが北部地域に関心を持ち、みんなで考え、一緒に取り組んでいくことができる「仕組み」をデザインしていきます。

課題解決に向けた「仕組み」をデザインする。

プロジェクトチーム

大学、専門識者、クリエイターをはじめ、地元地域の方々や北部地域で活動する団体と連携を深め、協働の体制をつくる

北部地域と密接につながり
フィールドワーク、取材、編集などの活動を行う

活動を通じてプロジェクトの「仲間」をつくっていく



課題解決に向けて
みんなで意見やアイデアを出し合える「場」をつくる

- ・ 地域課題の「見える化」を行い、みんなで共有する
- ・ 歴史、文化をはじめ、自然環境、人々の暮らしなど地域資源や魅力を再発掘していく
- ・ 北部地域の未来図を一緒につくっていく

過程と成果を
情報発信 <> 情報共有

北部地域で暮らしているの方々

市内外で活動しているの方々



地元の方々と一緒になって、
課題解決への方法を見出し、
地域資源・魅力の再編集を実践する。

大阪大学大学院 工学研究科の学生が
「泉原」でフィールドワークを行いました。

「いばきたデザインプロジェクト」では、茨木市北部地域の多岐にわたる課題について、地元の方々と行政、市内外の人たちが一緒になって、デザインによる解決を目指します。また、地域資源や魅力を掘り起こし再編集していくことで「新たな価値創出」につなげていきたいと考えています。大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻都市環境デザイン学領域とのチームによる「泉原」のフィールドワークでは、自治会長の西谷博嗣さんをはじめ、地元で活動を行っているたくさんの方々に集まっていただき、さまざまな意見やアイデアをお聞きすることができました。今後も、さらに深く情報共有を図っていきながら、みなさんと共にプロジェクトを推進させていきます。



森林ボランティア団体の活動拠点
「茨木市里山センター」の
課題解決と魅力づくりに
取り組んでいく。

北部地域に広がる大自然、美しい山々と里山の風景。平成19年に設立された里山センターは、茨木の貴重な資源である豊かな自然環境の整備・保全活動を行う森林ボランティア団体の拠点として機能しています。「いばきたデザインプロジェクト」では、農林業従事者の高齢化や若年層の流出による担い手不足など、さまざまな課題解決に向けて、里山センターと一緒に、自由に意見やアイデアが出し合えるフィールドづくりに取り組んでいきたいと考えています。



「茨木里山を守る会」の活動を
取材させていただきました。



茨木里山を守る会は、会員数100名、地元地域から10名以上が入会。地元に着目した活動を継続的に実施しています。活動地は里山センターを拠点に、隠れキリシタンの里・千提寺地区、銭原地区、竜王山等約30ha。この日は、拡大竹林の伐採と台風による倒木処理を行いました。会長の佐野毅さんに現場を案内していただき、活動意義や各工程の説明をはじめ、環境保全の課題についてのお話を伺うことができました。常に安全を心掛けながらの地道で丁寧な活動に触れ、いかにして茨木の森林が守られているかを実感しました。これからも取材を通じて、各団体との交流を深め、情報共有・発信を行い、課題解決への道筋を見つけたいと思います。

